

この街を愛してるお前に
出会えて本当に良かったな
誰かのために生きる可憐な
命の誇りなんだぜ
全てを失ったこの街に涙を流れ
いつかは時を忘れ子供達の笑い声
歩き出す希望の街よ



中小路

<http://www.net1jway.ne.jp/nakakouji.k/index.html>

第123号

中小路学区コミュニティ推進会
中小路地区社会福祉協議会
発行責任者 吉岡 保夫
編集責任者 広報部
交流センター 22-6483

「福祉の三助」です。コミュニティの活動は「共助」にあたります。「共助」の心があって、地域の中でも支えあい助けあい、お互いを気づかいあって、初めて安心した心豊かな暮らしを送ることができます。それは「お互い様」という日本人の心

その中で、改めて確認したことは「福祉の三助」です。コミュニティの活動は「共助」にあたります。「共助」の心があって、地域の中でも支えあい助けあい、お互いを気づかいあって、初めて安心した心豊かな暮らしを送ることができます。それは「お互い様」という日本人の心

二〇年振りにこれから十年間の中小路学区コミュニティ活動の羅針盤を作成することができました。住み慣れた「中小路学区」の地域で、安心して暮らし続けることは、住民誰も願っています。今回のプランを策定するにあたって、まず考えたことは「私たち自身ができることは何か!」「住民ともに支えあい助けあいながら行えることは何か!」の二つを改めて考えてみることにしました。

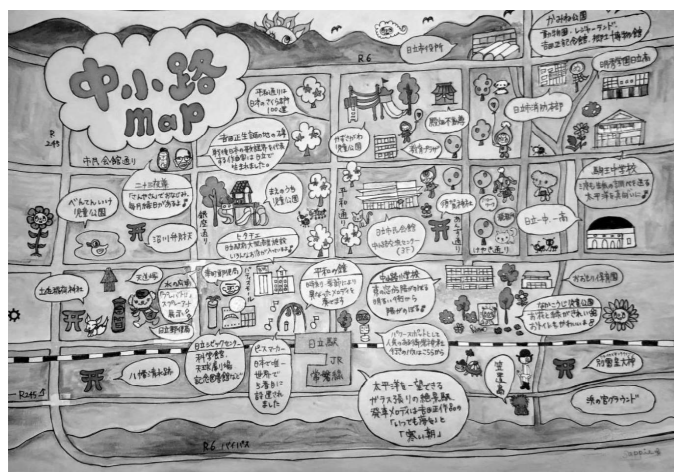
コミュニティプラン策定について

中小路学区コミュニティプラン策定委員会 委員長 草地 学

現在の社会状況は、子育て世代の共働き率が七〇%に迫り、定年の延長と日立市にコミュニティが組織された半世紀前とは大きく変化しております。今回のプランでは令和五年に行った地域住民アンケートをベースに、「4つのまちづくり」を掲げ、「各年代のニーズに合う参加したい行事」を創り、安心と安全、楽しさと活力に満ちたプランを策定しました。



中小路学区コミュニティプラン策定委員会メンバー



時代はDX（デジタルトランスフォーメーション）や生成AIなど、デジタル社会形成の流れが生活に入ってきていますが、「人は人と触れ合うことができるから人である」。そのために地域、コミュニティがあると思います。このコミュニティプランがきっかけになり、私たちが住むふるさと「中小路学区」が次の時代も人の笑顔に溢れる場所になることを切に願っています。

中小路に大谷翔平選手のグローブが届きました

報道で話題となった「大谷翔平選手からのグローブ」、中小路小学校にも冬休みに届きました。子どもたちには3学期の始業式にお披露目し、その後各クラスで一人一人に手に取ってもらいました。初めは慣れないようでしたが、まず6年生にキャッチボールしてもらいました。低学年の子どもたちも寄ってきて、やってみたくと話していました。グローブを持つのは初めてという子どもたちも多いですが、「大谷選手」ということで、興味関心が高いです。休み時間などで使いながら、大谷選手の願いである「野球に楽しむ」子供たちが増えていくといいなと思いました。

学校関係者各位

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンゼルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーグ一、大谷翔平です。

この手紙は、この度私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介しますものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私から個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝です。

野球しようぜ。

大谷翔平



消費生活サポーター便り

昨年末、消費生活センターで3回にわたる養成講座が行われました。今回は消費側、広告(販売)側そして取締側と違った立場からのお話で大変興味深い内容でした。

茨城県警 サイバー対策課の方のお話で「今の時代、名前と連絡先は誰もが知っていると思ったほうが良い。それ以上の情報を与えないように気をつけてください」とのお話しが最初にありました。講師の方は普段でもメールやネットにのっているアドレス(登録者ID付URL)をクリックはしないとのことでした。最近ネットの広告でもクリックすると「クッキーを許可しますか」という表示が良く出ます。クリックした人のアドレスが情報として取得され、その人がどんなところを見て次はどのサイトに行ったかまで把握されてしまうとのことでした。

広告側はネット時代の消費者行動を分析し広告戦略を立案しています。何とか特定個人の閲覧履歴をつかみ顧客につなげようとしています。興味のある情報のときはメールやSNSは閉じて、新たに自分で検索してホームページから見ないようにしましょう。

皆さんは「デジタルタトゥー」という言葉を聞いたことがありますか? SNS等、ネット上に一度投稿公開してしまったものは自分で自分の投稿を消してもネット上では消えないということです。投稿する際は気をつけてください。広告側の方から「ステマ(ステルスマーケティング)」という言葉の説明もありました。「商品のコスメレビューをしてくれたら無料になります」の言葉に誘われ、自分で買ったようにレビューする…レビューする際は広告とわかる「#」を付けないとステマとして取締りの対象になってしまいます。

近年フリーマーケットへの相談件数が多くなっています。利用したことがありますか。高齢者の方も生前整理や終活などでフリマを利用する方が増えています。フリマサイトを利用するにあたり気をつけなければならないのは、フリマはあくまでも個人間の取引でサイト運営者には責任がないということです。利用規約を良く理解してから利用するようにとの注意がありました。

「これで大丈夫」そう思うことが危ない! わかった気になることは、他人のレベルの証拠だとのこと。今気をつけるべきことに敏感になること、そして「もしかしたら自分も」という疑いが気づきとつながります。

誰でも「だまされた、失敗してしまった」等、被害にあったとき誰にも相談できないという状況に陥りがちです。そんなときは

消費者ホットライン 188(イヤヤ!!)

に電話してください。近くの消費生活センター相談窓口につながります。

中小路カルタンピック

令和6年2月3日(土)に中小路交流センターにて中小路コミュニティ青少年育成部主催による、カルタンピックと題して、ひたち郷土かるた大会が開催されました。

小学生4チーム、中小路小学校先生チーム2チーム、中小路地区社協1チーム、中小路コミュニティ1チームの合計8チームが参加しました。

審判は日立ロータリークラブの方々、読み手、記録は駒王中学校の生徒さんが今年も協力してくださいました。

また、カルタンピック参加者の保護者の方がたくさん応援に駆けつけて下さり、中には、急遽審判をやって下さった方もいらっしゃいました。

試合は、4チームずつに振り分け、リーグ戦を行い、試合形式は、コロナ前は3人で取り合っていました。密を避け1対1で18枚のカルタを取り合う形式となりました。AとBの同じ順位同士で試合して最終順位を決めました。



白熱した試合展開



優勝したCHERRY

優勝は「CHE.R.RY」2位は「にゃんこ大戦争軍団」3位は「俺たちの野望」。1~3位まで小学生でした。

先生方チームは、校長先生はじめ若い先生が頑張っていました。小学生チームの素早さにはかないませんでした。水戸黄門や吉田正の絵札に盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

景品や飲み物の準備、会場の設営など青少年育成部の皆様ありがとうございました。



栃木県防災館

暖かくお天気に恵まれた二月十日、二日防災を学ぶために、二十一名がバスで栃木へ向かいました。自己紹介をしながら交流を深めました。栃木県消防学校内にある「栃木県防災館」では防災映画の上映があり、大風体験、煙迷路体験、地震体験、大雨体験ができます。風速30メートルの風、震度7の揺れ、顔があげられない猛烈な雨、実際に体験してみると予想より威力が強く、避難行動をためらったりすると、妨げになると感じました。また、最近では緊急時の対応や避難のタイミングが変化していること、自分の身を守るために効果的な耐震設備や技術が進化していること、各家庭で備えておくことの大切さを確認しました。

栃木県の防災研修に参加して

書記 佐藤 志保



栃木県のいちご農園

移動中にも研修は続きます。日立市が作成しているハザードマップを説明、学区内の9月の大雨被害を共有しました。地域で作成している個別避難計画の説明で、要支援者への対応を民生委員さんからお聞きしました。東日本大震災の時に実際に避難した方も多く「自助、共助」の大事さを改めて実感しました。一月の能登半島地震が起こったこともあり、自らの防災意識を振り返る機会となった学びでした。その後はバス内にもぎやかにになり、旬のちおとめ、搾りたての日本酒、益子焼など栃木県の魅力存分に味わうことが出来ました。頭も心もおなか一杯になった楽しい研修会でした。

中小路コミュニティ推進会 事業報告(05年度)について

行 事 名	期 日	備 考
中小路地区コミュニティ総会	4月16日(日)	開催
中小路グラウンドゴルフ大会	5月7日(日)	中止
クリーンアップ大作戦	6月10日(土)	開催
中小路夏まつり	7月29日(土)	開催
敬老のつどい	9月16日(土)	中止(「元気応援事業」実施)
地区対抗4コートバレー大会	11月12日(日)	地区対抗だけ開催
ふれあい健康ウォーキング	10月30日(土)	中止
さわやかマナーアップ	11月1日(水)	開催
日立魅力再発見ウォーク	11月23日(木)	開催
中小路学区自主防災訓練	11月25日(土)	開催
カルタンピック郷土かるた大会	2月3日(土)	開催

協力員になって



大内正康

1月から交流センター協力員の仲間入りさせて頂きました大内と申します。

私は若葉町で生まれ、中小路幼稚園、中小路小学校、駒王中学校を卒業し、二人の息子も同じく生まれ育った町ですが、これまで40年余り市外で経理職として働いておりましたので、わからないことが沢山あります。これから地域の皆様とふれあいながら勉強していきたいと思っております。

新しい環境なので慣れるまで色々とお世話になると思いますが、お役に立てられるよう努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

「2年間お世話になりました」

中小路小学校校長 大高 美枝子

教職員最後の2年間を我が母校である「中小路小学校」に勤務することが決まった時、とても嬉しく、有難い気持ちでいっぱいになったことを思い出します。

日立一高方面から登校していた私は、東洋一の大煙突を見ながら宮田橋を渡り、南北に長く黒い木造校舎の真ん中の通路を歩いてグラウンドに抜け、昇降口に向かいました。体育館は当時と同じ場所、プールは4年生の時に完成しました。休み時間はジャングルジムが一番上に登り、みんなの様子をよく眺めていました。日立セメント工場の機械の音と、それに負けない私たちの声がいっつも響いていたことを記憶しています。

私が校長として中小路小に赴任し、感動したことの一つは、中小路コミュニティの素晴らしさ、地域の方の温かさです。役員会、総会、夏祭り、クリーンアップ作戦など、たくさんの行事に参加させていただきました。皆さんいつも気軽に話をいただきました。子供たちの見守り、あいさつ運動、カルタンピックなど、地域のために、住む人々のため、そして、子供たちのために協力し合いながらできることを行ってくださっていること、参加させていただくたびに感謝と感動がいっぱいでした。そしてそれは、長い歴史があることを実感しました。中小路小学区に生まれ育った自分の周りには、素晴らしい方々がそばにいてくれたのだと理解することが出来ました。

この2年間、中小路小学区の皆様のご協力をいただくばかりでしたが、今後私も皆様のように地域に貢献できる人間でありたいと強く思っております。本当にお世話になり、ありがとうございました。

